

ほほ 笑顔美人は頬の筋肉から

魅力的な笑顔の決め手は小頬骨筋と大頬骨筋の量

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社(本社:神奈川県横浜市、社長:釘丸和也)は、国際医療福祉大学三田病院の奥田逸子准教授とともに表情の豊かさと表情筋の量の関係性について研究した結果、笑う時に頬や口角を大きく動かしている人ほど、動かした部位の皮下にある筋肉が厚いことを発見しました。

このことから、普段から顔を大きく動かすだけでなく、マッサージやエステによって特定の表情筋を効果的に鍛えることで、表情が豊かになり、その人の魅力を高められると期待されます。

この成果は、今後、ポーラ・オルビスグループの商品やサービスに活用されます。

研究背景：肌だけでなく、その人全体の魅力を高めることを追求

ポーラ化成工業では、すべての人に美しく彩りのある人生を提供するため、研究対象を「肌」から「ヒト全体」へ広がっています。人を魅力的に見せるための要素の一つとして、表情、特に「どのくらい大きな笑顔を作ることができるか」が重要とされています。笑顔の大きさは「表情筋の動き」と密接に関わっていますが、「表情筋の量」との関係はこれまでほとんど研究されていませんでした。そこで今回、皮下にある代表的な表情筋の厚さを測定することで、笑顔の大きさと関係性について調べました。

笑顔が大きい人は、皮下の表情筋の量が多い(図1)

まず、40歳代の女性10名を対象に、できるだけ大きく笑った時の顔の動きを表情解析ソフトによって数値化しました。次に、この10名が、笑った時に大きく動く部分の表情筋の量を測定しました。なお、表情筋の量は、医療検査でも使われるCT(Computed Tomography)装置による撮影で得られた顔の断面の画像を使って測定しました(【補足資料1】)。これらのデータから、どの表情筋が笑顔の大きさと関係が深いのかを解析しました。

その結果、大きな笑顔を作れる人ほど、上唇を引き上げる筋肉(小頬骨筋)と口角を引き上げる筋肉(大頬骨筋)が厚いことがわかりました(【補足資料2】)。

笑顔の大きさに比例して、特定の表情筋の量が多いことを発見

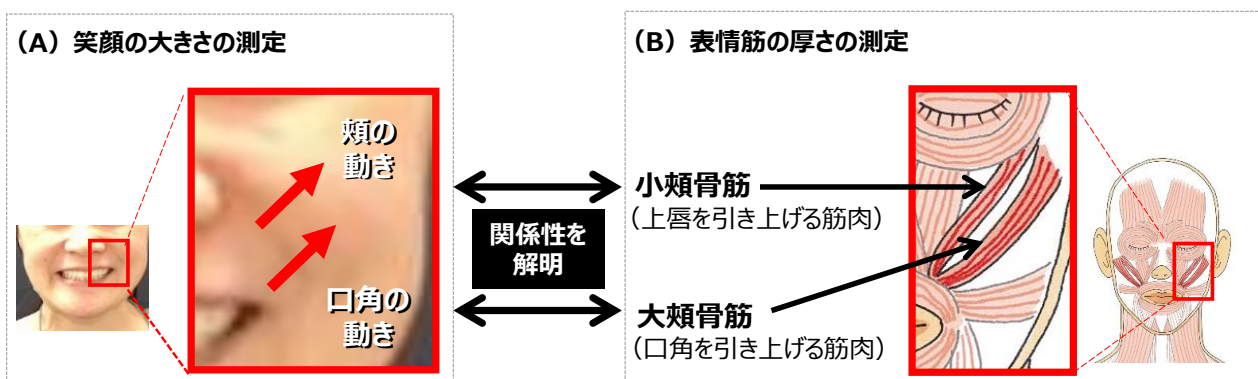


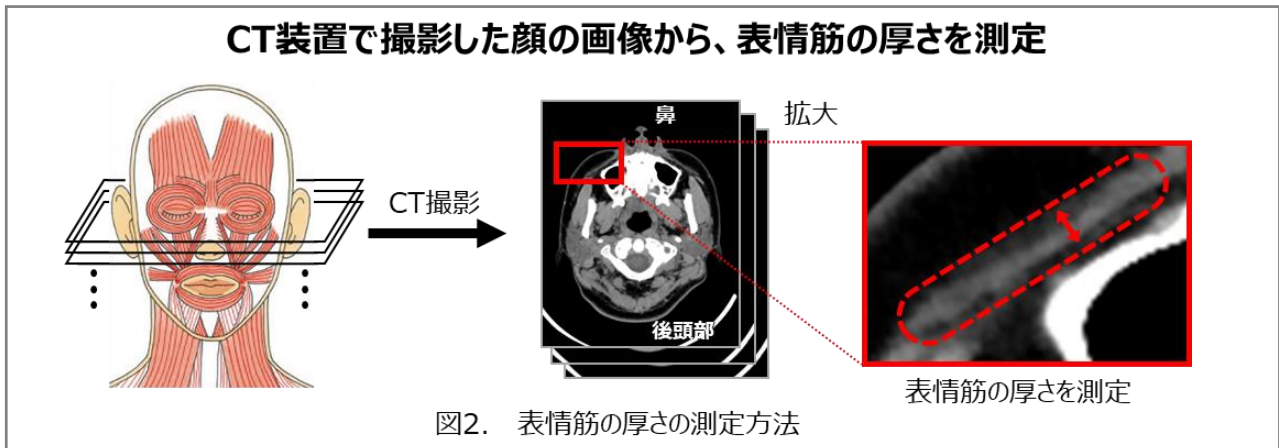
図1. 研究の概要

以上から、笑顔が大きい人は、頬の皮下の筋肉が厚く、頬と口角を引き上げる機能が高いと考えられます。

ポーラ化成工業では今後、これらの表情筋を効果的に増やす手法を提案していくことで、より笑顔が大きく魅力的な人を増やしていきたいと考えています。

【補足資料 1】 表情筋の厚さの測定方法

最新の CT 装置で撮影し、顔の断面図から得られた画像を使って、代表的な表情筋の厚さを測定しました。



【補足資料 2】笑顔の大きさと表情筋の厚さの相関関係

できるだけ大きく笑った時の笑顔の大きさを、表情解析ソフトによって数値化しました。その笑顔の大きさと、CT 撮影で測定した表情筋の厚さの関係を調べました。

